

学校教育目標	【学校教育目標】共に創り共に歩み共に輝く ○基礎・基本を大切に、自ら課題を解決しながら、共に学び合う力を育てます。【知】 ○他者との豊かな関わり合いの中で、互いのよさや違いを認め合い、共に高め合える姿勢を育てます。【徳】 ○健康や安全の大切さに気づき、自分や他者の生命を尊ぶことのできる、心も体も健やかな子どもを育てます。【体】 ○地域の人々や自然とのかかわりを通して生き方を学び、自らできることを考えて実践できる力を育てます。【公】 ○私たちの「まち」綱島を愛し、綱島の自然や文化の素晴らしさを受け継ごうとする態度を育てます。【開】				
	創立 76 周年	学校長 金森 孝子	副校長 中里 充	2 学期制	一般学級: 22 個別支援学級: 6
学校概要	児童生徒数: 665 人 主な関係校: 新田中学校				

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	新田中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<問題発見・解決能力> <持続可能な社会の創造に貢献する力>	新田中学校 新田小学校 新吉田小学校 新吉田第二小学校	「人との関わり」や「自他の思いや願い」を大切にできる子 「自分づくりに関する力」をブロック全体で育てたい資質・能力として設定し各教科領域において、資質・能力を意識した授業を展開する。(ブロック小中一貫合同授業研を年2回実施。) ・児童生徒交流日に、6年生が中学校の授業を参観。中学校生活の意識を高める。 ・授業部活動見学(6年)を通して、中学校生活への意識を高める。

中期取組目標	○子ども一人ひとりの思いや考えを大切にしながら、子どもが仲間と協働しながら学びを深める授業づくりを行うとともに、個に応じた指導を充実し、主体的に学習に取り組む態度を育成します。 ・1年目は、思いや考えを伝え合い課題を見つけたり新たな視点について気付いたりする力を育てます。 ・2年目は、互いの考えの違いやよさを理解し、よりよい解決策について話し合う力を育てます。 ・3年目は、多様な考えを生かし、課題解決に向かって協働して取り組む力を育てます。 ○綱島のまちの「人」「もの」「場所」を生かし、豊かな体験を通して、まちを愛する心を育てます。 ・3年間を通して、 子どものまちへの思いを引き出し、豊かな体験から自己有用感をもてるようにします。 ○日々の観察とデータを活用しながら、子ども一人ひとりの変化を捉え、学びの充実に生かします。
--------	--

重点取組分野	具体的取組
知 確かな学力	①単元や一単位時間で育成を目指す資質能力を明確にした授業づくりをする。単元や本時のめあて、学習計画を確認し、 子どもが自分の学びを選択しながら 学習を進められるようにする。②協働的に課題を解決する過程において、 主体的に取り組める身近な材を活用し、課題意識をもてるようにする。 友達の見解を取り入れながら、絶えず問題解決に向かい、 自分の考えを見つめ直し深めることができる子ども を育成する。
徳 豊かな心	①年間を通してペア学年の取組を充実できるようにし、自他を大切に思いやりの心情を育て、互いに思いやる心情を育てる。②年間計画を基に、 児童主体の生活・総合的な学習の時間を推進し、自己有用感を高めるとともに、互いのよさやちがいを認め合い、共に高め合える姿勢を育てる。 ③道徳科、人権週間での取組を充実させ、自己を見つめ、誰もが安心して豊かに生活できる環境づくりに努める。④ 情報モラル教育を行い、自他の権利を尊重し、行動に責任を持ち、情報を正しく安全に利用できるようにする。
体 健やかな体	①体育、保健の授業において 体力・運動能力調査結果の分析に基づいて、個に応じた指導を行い基礎的な技能の定着を図るとともに、授業の手立てや場の設定を工夫するなど、運動することの楽しさや味を味わえるようにする。 ②学校保健委員会の中で、 子ども自身が考える課題について全校で取り組み、自身の生活習慣を見直すことができるようにする。 ③学校栄養職員と連携しながら食育を実施し、 自らの健康のために必要な食事について考え、日々の生活で実践できるようにする。
公 地域連携	①綱島の「人」「もの」「場所」の材を生かした体験的な活動を展開し、 子ども一人ひとりの「まち」への思いを育てる学習の充実を図る。 ②地域の方々に関わる活動を通して、感謝の気持ちをもちながら、 自分たちができることを考え、実行するようにする。
いじめへの対応	① 児童主体の学習活動を充実させ、互いの違いやよさを認め合う温かな学級風土づくりをしたり、自己肯定感や自己有用感を高めたりして、いじめの未然防止に努める。 ②YPアセスメント、いじめアンケートや教育相談を行い、結果を教職員で即座に共有、分析することで、いじめの早期発見に努め、児童支援専任を中心として、全職員での情報共有やいじめに対する組織的な対応を図る。
人材育成・組織運営(働き方)	①各委員会に経験や昨年度校務分掌などを考慮してバランスよく人材を配置し、 ICTを活用してマニュアル化を進めることで、仕事を継承していけるようにする。 また、結果や改善点を共有し、次年度の方針を決めておくことで効率化を図っていく。②メンターチームを組織し、メンター長に3年目の職員、コーディネーターにミドルリーダーを任命し、授業準備や学級経営を共に悩むペア・ティーチング型メンター制を構築する。
特別支援委員会	①授業のユニバーサルデザイン化を図り、 ROIノートやデジタル教科書なども効果的に用いることで、誰一人取り残すことなく、学習に参加できるようにする。 ②支援が必要な児童や、その児童がかかえている課題に応じた教育の内容や支援の方法について検討し、特別支援教室「つながるルーム」を活用するなどして、児童が安心して過ごせるように支援する。
児童生徒指導	①担任、学年、専科など多くの職員で児童と関わり、情報共有し、多角的に見ることで児童の理解を深めていけるようにする。②綱島スタンダードを全職員で共通理解し、同じ方向性で指導を行い、定期的にフィードバックする場を設け、守れていないルールへの指導の工夫を模索することで徹底を図り、児童が安心、安全に生活できる環境を整える。③ 不登校や登校渋りの児童の思いに寄り添い、学習の支援のあり方を保護者と共に探り、ICTの活用も入れながら学びが継続できるようにする。
教育課程・学習指導	①年間指導計画を、資質・能力のつながりを共有しながら継続して検討する。②互いのよさを認めつつ、意見を深めるために発達段階に応じた話型や思考ツールの提示をしたり対話的な指導をしたりする。③ ICTを活用して自分と他者の考えのよさを比較・参照できるようにし、友達の考えでどう変わったかを振り返ることができるようにする。
通級指導教室	①一人ひとりに応じた支援が行えるように研修会や担任者会を行う。個別の指導計画の適正な活用や個に応じた合理的配慮ができるよう情報を発信する。②スキルアップ研修により、ひとり一人の資質向上を図り、特別支援教育の充実を目指す。③(まなびの支援教室のみ)協働型巡回指導により通級担当教員の児童への指導・支援や担任等への助言、個別の指導計画の共有を通して、教員の専門性の向上や校内支援体制の充実を図る。